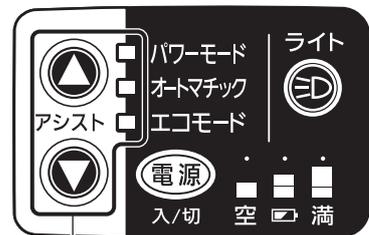


# 走行モードについて

## 走行モードの表示と切り替え

メインスイッチの電源ボタンを押して電源を入れます。(電源が入っていると、ランプ類が点灯します)

走行モードランプは、選択されている走行モードを表示します。



走行モード切替ボタン

- 走行モード切替ボタンの“△”を押すと、[エコモード]→[オートマチック]、または[オートマチック]→[パワーモード]と走行モードが切り替わります。
- 走行モード切替ボタンの“▽”を押すと、[パワーモード]→[オートマチック]、または[オートマチック]→[エコモード]と走行モードが切り替わります。

### 警告

ペダルに足を乗せたまま、メインスイッチの電源を入れないでください。

### 要点

- 走行モードの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- 走行モードの切り替えとバッテリー残量ランプの機能とは関係ありません。
- 電源を入れると、前回電源オフした時に選択されていた走行モードで起動します。
- 走行モード切替ボタンの“△”または“▽”を押し続けても、走行モードは一巡しません。

# 充電あたりの走行できる距離

## 一充電あたりの走行距離

一充電あたりの走行距離の目安は、以下のとおりです。  
また、選択する走行モードにより走行距離は変わります。

走りかた	走行距離					標準パターンで 連続走行した場合
	10km	20km	30km	40km	50km	
<b>標準パターン</b> 	<b>パワーモード: 25km</b> <b>オートマチック: 28km</b> <b>エコモード: 41km</b>	標準パターンを連続して走行した場合 [勾配7.0% (4°)の上り坂を変速ギヤ<2>で、その他を変速ギヤ<3>で走行した場合]				
<b>4°登坂連続パターン</b> 	<b>パワーモード: 10km</b> <b>オートマチック: 10km</b> <b>エコモード: 14km</b>	速度 10km/h で、勾配 7.0% (4°)の坂道を連続走行した場合 [変速ギヤ<2>]				

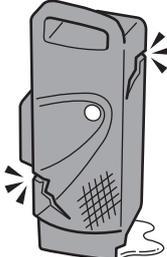
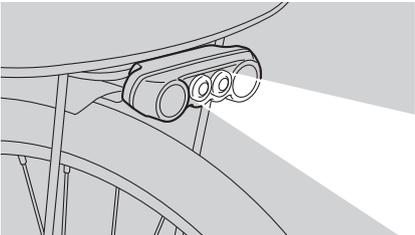
### 要点

- 上の表は、無風の平滑乾燥路を積載重量65kg(乗員と荷物の合計重量)、新品状態のバッテリー、常温15~25℃、無灯火(無点灯)、の条件でパワーモードもしくはオートマチックで走行距離を測定したときの弊社データです。
- 同一条件で走行距離を測定しても、勾配を緩やかにした場合(例えば、標準パターンで勾配が3.5%(2度)になった場合)は、走行距離が増える傾向にあります。エコモードの場合、この傾向が顕著に見られます。

# 充電あたりの走行できる距離

## 走行距離に影響を与える環境

以下の状況で走行した場合は、アシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。

 <p>発進・停止の頻度が高い</p>	 <p>積載物が重い(多い)</p>	 <p>急坂の登坂</p>
 <p>走行する路面の状態が悪い</p>	 <p>強風</p>	 <p>低温時</p>
 <p>タイヤの空気圧が低い</p>	 <p>バッテリーの性能が劣化している</p>	
 <p>幼児が同乗している</p>	 <p>ライト(前照灯)が点灯している</p>	

整備不良の場合にも、走行距離が短くなる可能性があります。

走行距離が短くなる整備不良の例：常時ブレーキが効いている。(引きずっている)

# 発進のしかた

## 乗る前に…

1

一発二錠を開錠しましょう。(P52～P53)

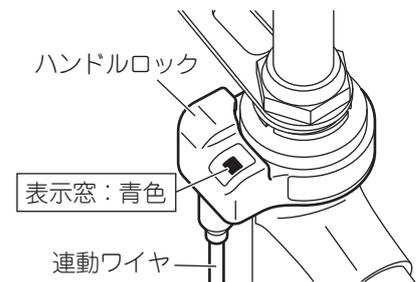
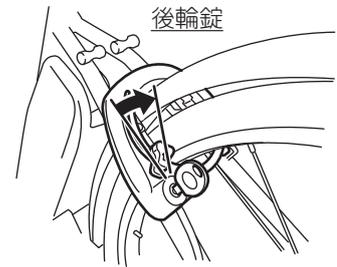
- 開錠後、キーは後輪錠に付けたまま走行します。
- ハンドルロックの表示窓全体が青色表示であることを確認します。(P51)
- ハンドルを回し、ロックが完全に解除されていることを確認します。(P51)

### 警告

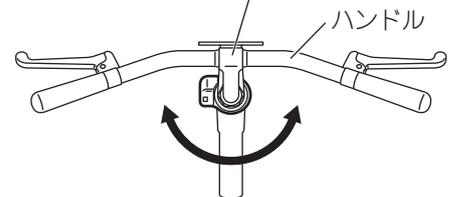
バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。

### 注意

走行中に車輪に巻き込まれやすいようなキーホルダーは付けないでください。



ハンドルの操作に異常のないこと



2

ペダルに足をかけないでメインスイッチの電源ボタンを押して、電源を入れます。必要に応じ走行モードの切替をします。

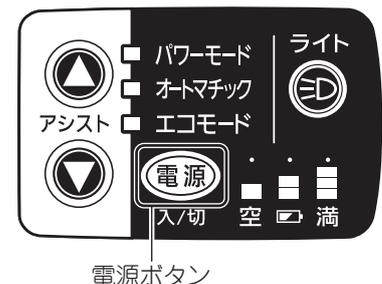
### 要点

- 走行中等ペダルに踏力をかけた状態で電源を入れますと、アシストが弱くなる場合があります。再度電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。
- メインスイッチの電源を入れても、自転車が停車した状態が10分間以上継続した場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。

#### 【自動電源オフ機能】

但し、ペダルに踏力がかかっていない状態であっても、メインスイッチの操作をしていれば電源は切れません。

- 自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。



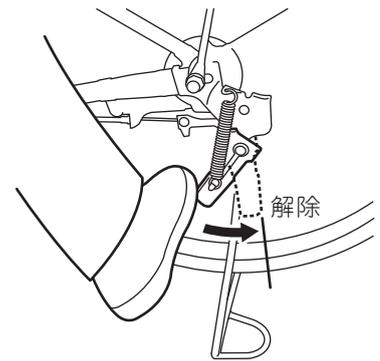
# 発進のしかた

3

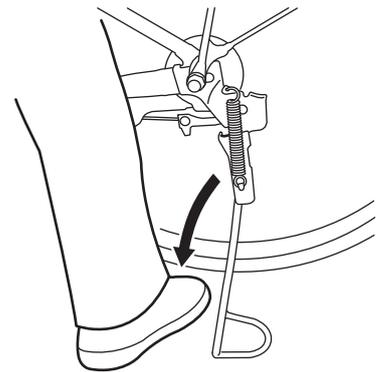
スタンドをはね上げます。

スタンドのはね上げ方

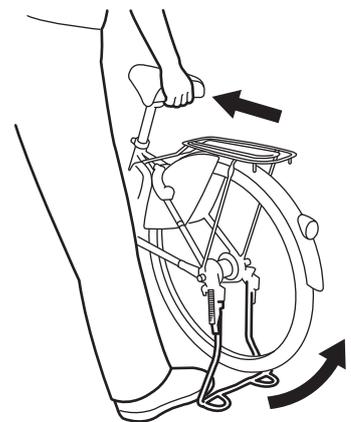
①両手で自転車を支え、ロックレバーを足で後へ押して、ロックを解除します。



②解除したら、必ずロックレバーから足を離します。



③スタンド下部を足で押さえて自転車を前へ押し、スタンドをはね上げます。



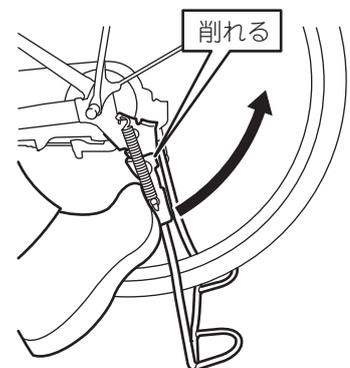
## ⚠ 注意

- 後輪錠を開錠してから、スタンドをはね上げて（解除）ください。

施錠したまま自転車を動かすと、カンヌキがスポークやバルブとぶつかり、破損するおそれがあります。

- ロックレバーを押しながらスタンドをはね上げないでください。

部品が削れてくぼみができ、動きが悪くなるおそれがあります。



# 発進のしかた

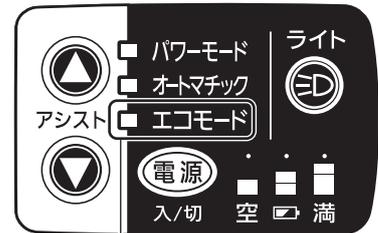
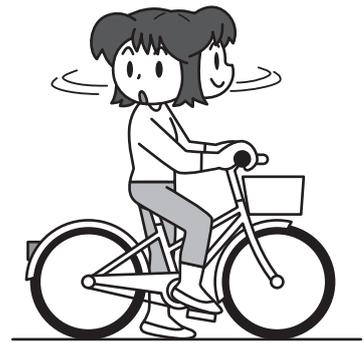
4

サドルに座り、ペダルに片足を乗せて発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確認、発進の合図をしてからペダルをゆっくりと踏み込みます。

電動アシストシステムはペダルを踏み込むと瞬時に作動します。走行中はモーターが作動しているため、モーター音が発生します。

## 警告

- けんけん乗り（片足をペダルに乗せて助走し、反動をつけてサドルに座る乗りかた）はしないでください。転倒や接触によって怪我をするおそれがあります。
- 空き地や公園などでよく練習し、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れるまでは「エコモード」を使用することをおすすめします。



エコモード

# 変速のしかた

## 変速グリップの使いかた

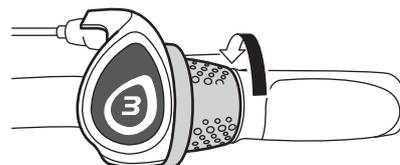
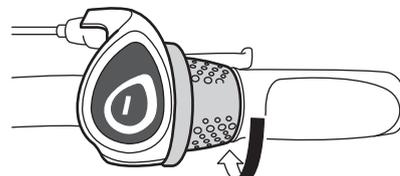
1

走行中の場合は、ペダルをこぐ足を止めます。

2

変速グリップを以下のように使用して、シフト位置を切替えることができます。

- 変速グリップを手前に回すとシフトアップします。  
〈1〉→〈2〉→〈3〉
- 変速グリップを手前から前方（進行方向）へ回すとシフトダウンします。  
〈3〉→〈2〉→〈1〉



### 警告

- 交通量が少ない場所など安全な状況で操作するようにしてください。
- 走行中に変速グリップの操作を行う場合は、変速グリップの操作に気をとられて、前方不注意にならないように注意してください。

### 要点

- ペダルをこいでいる状態では変速グリップを操作しても変速できないことがあります。無理に変速グリップを操作すると、異音がしたり変速装置が故障する場合があります。上り坂の手前で変速するようにしましょう。
- 空き地や公園などで十分に練習し、変速操作に慣れておきましょう。

道路状況に合わせて早めに変速することを心がけ、適切なシフト位置で走行するようにしましょう。

## 適切なシフト位置

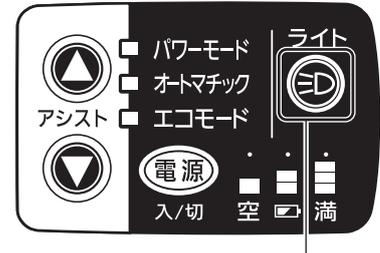
下表は、あくまで参考です。

道路状況	シフト位置	走行状態
平坦路から、ゆるやかな上り坂。 0~3.5% (0~2°) の勾配	〈3〉 	ペダルがやや重くなり、 スピードがでます。
ゆるやかな上り坂から、やや急な 上り坂。 3.5~7.0% (2~4°) の勾配	〈2〉 	通常走行時
やや急な上り坂から、 急な上り坂まで。 7.0~10.5% (4~6°) の勾配	〈1〉 	ペダルが軽くなり、上り 坂走行に適しています。

# 前照灯について

## 前照灯の手動操作

【ライトボタン】を押すたびに、前照灯の点灯と消灯を切り替えることができます。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも連動して点灯します。



ライトボタン

### 警告

前照灯が点灯した状態でのアシスト走行中にバッテリー残量が減少すると、まずアシスト走行ができなくなり、その後しばらくしてから前照灯も消灯します。走行開始前にバッテリー残量が十分にあることをご確認の上ご使用ください。

### 要点

- 前照灯が点灯しているときに【ライトボタン】を押すか、【電源ボタン】を押して電源を切ると、前照灯は消灯します。
- バッテリーライトはメインスイッチの電源の入切に関係なく点灯・消灯することができます。
- 停止して10分後に、自動的に消灯します。